

令和3年度第1回地域公共交通評価会議 議事録

■日時：令和3年12月17日（金）10：00～11：45

■会場：河南町役場庁舎4階大会議室南

■議事内容

1. 開会

（事務局）

只今から令和3年度 第1回 河南町地域公共交通評価会議を開会させていただきます。

（森田町長） 挨拶

（城田副町長） 挨拶

2. 委員紹介

（事務局） 委員紹介、資料確認

3. 役員選出

（事務局） 会長、副会長選出

（猪井会長） 挨拶

（古川副会長） 挨拶

4. 議題

（1）河南町地域公共交通の利用状況、評価について

①河南町地域公共交通会議の協議結果

河南町地域公共交通評価会議の議事等について

（事務局） 資料—1 説明

（猪井会長）

ただいま事務局より説明のありました、この昨年度の河南町地域公共交通会議の協議結果につきまして、皆様からご質問ご意見賜りたいと思いますが、何かご質問ご意見ございますか。

（質問・意見なし）

（事務局） 資料—2 説明

（猪井会長）

私の方から事務局に確認ですが、カナちゃんバスの現在の9か月の経費について、12か月に直すと2,700万円超となり費用が増えていると思われませんが、原因はどのような

に分析していますか。

(事務局)

運行委託費については入札にかけており、若干下がっておりますが、ガソリンの高騰で、その分が大きく上がっているのが要因と思われます。

(猪井会長)

町としての調達は安くしないといけないというところがありますが、運輸事業はなかなか運転手もいなくなってきたということですので、あまり委託費を厳しくしすぎるのはどうかと思いながら、そこについては委託費を下げるという努力をされた中でも、ガソリンが上がっているので、運行経費は上がっていると。

カナちゃんバスの収入については本格運行1年目を超えるぐらいになっています。実は、利用者数については、先ほどのグラフでは、3年度と初年度を見比べると3年度は増えたように見えるところ、燃料費の高騰の分で、1年目と同等となっているように見えます。

ですので、収入については、カナちゃんバスについては、そういう意味で、皆様に少しずつ利用が定着してきているのはというところですけども、このやまなみタクシーの方で、こちらの方は、利用者が若干純減しているのですが、コロナの関係でやっぱりタクシー車両を嫌われたとか、予約とか、どこの部分が差し支えて利用者数減っていると、事務局は分析されていますか。

(事務局)

タクシーですので、コロナの影響は出ていると考えております。中にカーテンをつけて、運転手との間を遮断するなど工夫はしていただいているところではありますが、もともと人口の少ない地域を走っているため、コロナが落ち着いてきておりましたが、通常よく利用されていた方が一人高齢者施設に入られるなどでも、大きな影響が出ております。

(猪井会長)

人口が少ない部分については、苦しさは出ていますが、その地域の人々にやはりそれでもまだ月間でいうと、数十人、60人の方々が使っておられますので、なかなかタクシーを廃止するというのは難しいところだと思われます。

(柴田委員)

利用状況についてですが、令和3年になってから、車内販売の数が増えているとの話。乗車券の販売は、特に3月、8月で大きな山ができていますが、これは、どのような理由によるものですか。

それと乗車券の需要について。もともと、現金で払っていた人が、10枚綴りの乗車券

を買ったことによる、増加という意味もあるのか。それから、車内販売が、非常に効果があったのか、それとも、だんだん定着して増えてきたのかという。その辺聞かせてください。

(事務局)

乗車券については、以前こちら、必ず役場の方に来ていただくなんかして購入するしかなかったわけですが、車内で販売することによって、多分ですが、中学生の利用がかなり伸びてきておるように思います。4月、9月から学校が始まるというところ、ちょっと伸びていると考えております。

(柴田委員)

この2つの山に私は注目しています。コロナで一般の方が外出しなくなったのは仕方のない話ですが、だんだん中学生がカナちゃんバスを便利だと思い出して、利用するようになってきている傾向があるのでは。そこのところはどうですか。

(事務局)

おっしゃるとおり、実際、雨の日、自転車通学の出来ない日には、その日の朝8時台や夕方4時、5時台は中学生の利用が多くて、満員というような状況が起きております。

参考資料-1のP1~4の資料からしましても、特に本格運行3年目の今年は中学生の利用が3,000人を超えるなど、利用者数が明らかに伸びてきていると認識しております。

(猪井会長)

委員ご指摘のように利用者数や収支も大事ですが、地域公共交通が何を支えているのかということも大事でございまして、実は中学生も支えているということです。

(福田委員)

事務局にお尋ねします。障がい者の方々が乗られる場合は50円になるので乗車券ではなく現金になりますよね。この現金の支払いをカード化できないか。それともう一点中学生の生徒の運賃は100円ですよね。この生徒の100円を50円に出来ないか。住民の方々からお願いされているので、この2点について来年度ぐらいから考えはないのかお尋ねします。

(猪井会長)

それでは、料金制度の今の実態と今後割引の可能性があるのか、予算が出されていると

思いますので、来年度すぐということは難しいかもしれませんが、今後検討の可能性があるので、事務局をお願いします。

(事務局)

障がい者の方は現在50円で10枚綴りの1枚100円の乗車券が利用が難しい状況ですので、カード化ということをおっしゃっているのだと思うのですが、カードシステムにつきましても、多額の費用がかかります。町としてもQRコードのシステムを検討はしておりますので、今後検討させていただきます。

中学生の運賃を50円にとの話につきましても、中学生に利用が増えてきている状況からして、半額にすると収支率が大きく落ち込むこととなりますので、難しいのではないかと考えております。

(福田委員)

カード化のお願いと、中学生の運賃についても、運営上大変厳しいとは思いますが、保護者の方々から検討して欲しいと伺っておりますので、よろしくお願いします。

それとカナちゃんバスの現在のルートですが、このバス停を例えば200mから150m間隔に短くするとか、大宝3丁目・大宝2丁目についても、もう一本北の方に通してもらうとか、北側の住民の方々からお願いをされていますので、今後そのようなことも検討していただけるのか、またお願いします。

(猪井会長)

私から一般論を申し上げますと、バス停というのは、近くにきてほしいけど家の前には置かないで欲しいというもので、バスの路線についても、バスが停まって横をすり抜けることができるという道の幅の制限がありますので、その実現可能性など警察も含めて協議が必要になります。

あとこれは地域の皆さんとのお願いになりますが、私は他の市町村の委員もしていますが、バス停を設置する時は、町が行ってもなかなか上手くいかないこともあるのですが、町内会長さんが一緒に行くと、上手くいくということもありますので、実際に自治会と一緒に行って、その可能性を検討すべきなのだと思います。

では、事務局がどう考えているかをお願いします。

(事務局)

会長がおっしゃるとおり、バス停をまず、設置するに当たりまして一番最初は、各地区区長様にお願いして、協議いただいて、ここなら置けるという場所で、全部置いていっております。大宝地域に関しましては、特に家が密集しております。なかなか空き地や公園がなくて、下り坂のところもございますし、やはり自分の家の敷地の角には置いて欲しい

ないという意見など、多々ございます。今、猪井会長がおっしゃった通り、町としては協議しないわけではございません。便利が良くなるように、協議を進めていきたいと思えますけれども、その辺の理由もあるということをご了承いただきたいと思っております。

(古川副会長)

今、ルートの問題が、福田委員の方から出たのですが、これは地域の話ですよね。地域で話をして、こういうルートが良いのかなとか。バスが通るとか通らないは、別の話ですよ。

だけど、ルートに関してはやっぱり地域で話をしないと。今、河南町は五つの校区に分かれていますよね。中村校区、白木校区というように。この校区の中で、バスルートの現状を説明しながら、もうちょっとこのような風にしてもらえたらどうかという要望が通るような話が、できる機会が、あるのかないのか。ルートを決めるときには、各校区で一度しっかり話をした方が、私はやはり一番利便性が利くのではないかと。あの人が要望しているとか、ここを要望しているということを聞いていたら、大変なことになると思えますので、まずは校区の中で話し合いをする機会を持って、その上でこのような会議で、話ができるかどうかということをお聞きしたいなど。この話が終わって、あと地域から言っていくところがないということも、一つの問題かなと思えます。

今出ているように、中学生を安くしたとします。そうすると、次は高齢者、我々をもっと安く出来ないかという話に、必然的になっていくと思うのですよ。ですから、後で聞こうと思っておりましたが、乗車券を11枚綴りにして1000円で売るとか、まず一つの段階を踏んでやっていくべきでないかと。学生の方がよく使ってくれるのなら、利便性があるということだと思える。ここだけ安くしてということは、なかなか私は難しいと思えますので、相対的にお考えをいただければなというふうに思えます。

(猪井会長)

今ご指摘がありましたように、こういう町の中で、いろんな議論をしていく。公共交通に不満を持って、どこに行っていくべきかが分からないとよく言われています。その意味で、これは町が運営する場合じゃなくて、民間バスの話で多いのですが、民間バスは地域の会に行くことを嫌がります。行ったら、批判要望が多くて行かないと。

実はそれは、どのように言っていけば分からなくて、そのような機会があった時には、ぜひ言いたいとして、非常に真摯な心でお話しされます。これはまちづくりをやっておられる近畿大学の先生もおっしゃられているのですが、どこに言っていけば分かれば、貯めないのですが、そうではないので貯めてしまい、どっと出てしまうと。そうになると、話を聞きに行く方も気が重くなってしまいます。ですので、町もこれは大変になりますので、出来るかは検討していただいた方が良くと思えます。

先ほど、実証運行から6年目って話が町長の話で冒頭ありましたが、6年間でどの

ような人達が乗ったとかを町広報に書くという方法もあるとは思いますが、発信としてこのような使われ方がしている、何のためのバスなのかというところをちゃんと理解してもらえるようにしていかないと。本格運行2年目の収支でいうと2,300万円をカナちゃんバスで出していて、やまなみタクシーも合わせて、2,700万円を出しています。この2,700万円で、町の皆さんが何を得られているのかということを含めて、理解してもらえないと、これ以上支出を増やしてでも、皆さん利用していただきたいかというところの話にはなりません。先ほどの割引という話でも、これ以上収支を悪くするわけに行かないのでという話になってしまいますので、その解決方法としては、町としては大変かもしれませんが、町会ごとに利用の報告会でご意見を賜るということをやってみてもいいのではないかと考えます。

ですので、ご提案にあった地域で説明会をするというのは、私は大変良いかと思えますし、町としては一時的には大変に見えても、将来的な施策展開としては、そちらをやっていく方がよいかと思えます。他、何かございますか。

(中川委員)

資料3の方でいろいろ質問しようと思っていたのですが、今中学生のことが出ましたので、ちょっと質問させてもらいたいと思います。冒頭町長の方からお話ありましたように、平成28年2月から、実証運行が始まりましたが、その前の議論で、我々もいろいろ地域公共交通すごく関心持っておりましたので、いろんな議論をする中で、私は当初の目的、地域公共交通の目的には、交通弱者の中学生も含めるべきだということに、意見を言わせていただいたときに、行政側の方は、いや、中学生はちょっと対象外であって、高齢者また、買い物というところが中心の地域公共交通を作り上げていくというような話がありました。今、現実には、中学生は非常に便利なので利用が増えていると。そこは私の意見が通ったということで喜んでおりますし、実際は先ほどデータでもありますように、非常に増えておられますので、便利に使っておられる。そうすると、中学生に対してもやっぱり重点的にこの地域公共交通の利用者ということの位置付けが必要ということになってきたときに、父兄の方から、少し時間帯に不便が生じると。例えば、授業の時間には、ちょっと時間が合わないとか、また、放課後、クラブ活動をした後に乗るには、やはり1時間近く待たなければいけないとか。そのようなことがあるのですけれども、その辺の改善点ですね、例えば学校のそういう時間割、ですね、時間帯とか、そういうところの改善点は今後考えられる余地があるのかどうか、少しの差で乗り過ぎて、ほぼ1時間待たなければいけないというようなことも聞きますので。冒頭言いましたように、中学生も非常に大事なお客として位置づけられるというような状況でしたら、その辺のことをちょっと改善点あるのかどうかちょっとお聞きしたい。

(事務局)

委員がおっしゃられたとおり、28年の2月の段階では、中学生のことはあまり考慮しておりません。29年2月、実証運行2年目で、時間帯を変更いたしまして、1時間前にして、7時台からバスは運行するようにしまして、その辺で中学生の方が乗っていただけになったわけですが、帰るなんかですね、そのクラブをされているとか、ちょっとバスに乗りおくれるとかいうことも聞いてはおりますけれども、この6年ぐらいになって1時間にこの時間にバスが来るというのがようやく定着してきたところでもあります。

確かに中学生も大事なお客様と言いますかそのようになってきてはございますが、中学生の方々だけのバスではございませんので、全体的なことを考えておりますので、もう少しこのままの時間帯で行きたいと考えております。

今後ですね、そういうお声に対しても、私たちも、また考えていくことはあると思います。

(中川委員)

そのようなお声を父兄の方からよくお聞きしますので、中学生が非常に大事な部分を占めるということになりましたら、利便性の方をお願いしたい。

それと、少し矛盾するような話になるのですが、我々の地域公共交通なのですが、一番初めにお話をいただいたようにやっぱり金剛バスとの協働、共存共栄ですね。

地域の足ということで金剛バスは非常に大事な交通機関ということに、我々位置付けていると思うのですが、その中で例えば資料1に戻りますが、資料1の路線バスについてということで、利用者数が減少しているというようなその他の意見が出ております。

この辺につきまして、例えば、今までカナちゃんバス等がなかった時は中学生の方も、金剛バスを利用されておられたと思うのですが、そういう意味で、金剛バスの経営に対しての圧迫と言いますか、それは地域公共交通の中で、非常に大きな問題点をはらむことも、あると思うのですが、その辺の可能性ですね、中学生がだんだん伸びていっていると、カナちゃんバスに乗っていただいているということで非常に我々としたら、運営しているものについてはありがたいわけですが、民間圧迫ということで、金剛バスに対して、収益の低下と言いますか圧迫をしているような恐れがあるのかどうかこの辺ちょっとお聞きしたいなと思います。

(猪井会長)

それはどちらかと言うと、資料3を先取りした形になっておりますが、すぐお答えできるレベルであれば、事務局お願いします。

(事務局)

最初のこの地域公共交通を走らせるときに、町内での移動がどれだけあるのかにつ

いて、金剛バスの後ろについて、我々職員が、どれだけ町内での乗降があるかという調査もしました。

その時はですね、あまり影響がなかったと聞いておりました、中学生の部分については、確かに影響が出ているのか分かりませんが、そこまでその中学生の方が金剛バスを、今以上人数が乗られていたかというところでもなかったように思います。

今はカナちゃんバスの料金が、100円、往復200円ということもあって、親御さんの方が、送り迎えする必要がなくなったということで、乗られていると。金剛バスは1区間、最低150円から始まって、中学校まで来るのに200円超の金額ですし、往復でしたら400円ぐらいかかります。

そのような状況ですので、あまり金剛バスは、その調査の時は中学生のご利用があまりなかったと思っております。

金剛バスを乗られる方はやはり、最終駅の富田林駅まで乗られる目的で乗られている方が多かったと思います。

金剛バスさんからは運営が厳しいとか、そのようなお声はいただいているところがございます。

(中川委員)

そのような分析でしたら結構でございます。やっぱり民業圧迫するのは本末転倒になりますので、その辺はよろしくお願ひしたいと思ひます。

あとはまた詳しくは、資料3のところでもた話させてもらひます。

(関委員)

中学生の件ですけど、資料を見せていただいたら、平成30年から比べると、大体1.5倍になっていると思ひます。それはやっぱり定着してきたということですよ。

特に雨の日、それから最後の放課後のクラブが終わった後に走って乗りに行かないといけないという声も聞いています。

それで、前にも学校の方に、私達の会の方から、学校としても聞いているのかと、子供、中学生の安全確保も含めて、その辺ちゃんと生活指導して欲しいということを申し入れたのですが、聞き流されたというのが現状です。

その点について、学校教育担当課と連携していただきたいということを前にも申し上げたのですが、やはり中学生の利用が非常に多く、地域では定着していますので決まった生徒が乗っているという部分があります。その上で、雨の日はそれに増えると。

それでそれに乗り遅れた生徒はどうしているのかなと思ひて聞いたところ、歩いて帰っていると。このようなことがありますので、学校との連携を強化するお考えをお願ひしたいと思ひますので、学校教育との連携についてお伺ひしたい。

それともう一つ、中学生の割引の問題も地域の皆さんから要望としてアンケートでは

たくさん出ております。

アンケートには、収支の結果を含めてお話を申し上げますと、ある程度納得はされるのですが、要望としては存在しております。

その点については、総合政策として、考えてもいいのではないかというふうにも思います。

例えば都市計画マスタープランのアンケートのところで、令和2年1月に町民対象で取られたと思うのですが、その時に、1番目が公共交通で、3番目の14%の人が、保健医療福祉子育ての支援っていうのが出ております。

そのところとの関連も含めて、総合政策としての割引的なものも、町として考えていただけないかなって思いますので、また連携の方よろしくお考えください。

(事務局)

教育委員会との連携についての考えをとお伺いいたしましたので、また教育委員会とも相談しながら進めていきたいと思っております。

中学生の割引の件についても、以前からもお話もいただいております。

中学生の保護者からの要望もいただいておりますのでございます。

それにつきまして、民間のバスは、中学生は半額にはなっておりません。半額は小学生までということも考慮いたしまして、中学生は大人料金というところで設定させていただいておりますけれども、町の施策全体的なところで、もう一度検討して欲しいというご意見ですのでまた考えさせていただきたいと思っております。

(猪井会長)

このお話を聞きながら、ちょっとアルファベットの訳を思い出しました。C I M (Children's independent Mobility) という言葉がありますが、私が子供のころの40年前って子供って1人で出歩いていました。今は子供が一人で出歩くことがなかなかなくなっています。イギリスとかでは今は厳しくて、10歳以下の子供が親と一緒に出歩かないとか一人で家に居ると犯罪になるそうです。

このことで何が変わったかということ、実は子供が親と一緒に動くようになって、その10歳を超えたところで、事故率が上がるようになったそうです。今までは、親御さんと一緒に車に乗って出るっていうところから、一人でポンと道路に出されると非常に危ないということです。その部分でイギリスでも反省はあるそうです。

実は、今のお話を聞いていいなと思ったのはこの点で、中学生が乗るようになるってことも、彼らの自立心というところだけじゃなくて、実は交通安全の面から、1人で外へ出る時に、責任を持ってもらうのが良いという話を思い出しました。そのような話で、先ほどの中川委員からの教育課と連携というご指摘も大事ではないかと思っておりました。

(古川副会長)

すみません。今日初めてこの会議に出席しまして、あまり経緯が分かっていないところがありますが、この地域公共交通の目的は、最初は何から始められたわけですか。

(事務局)

交通弱者である高齢者の方々の地域の足として始めております。

(古川副会長)

ですね。そのように、取った訳であります。確かに中学生、学生が多くなってきて、議論がほとんど学生になっているわけではありますが、最初の目的どおり、やっぱり地域の人、高齢者のこともあります。学校でやるなら、スクールバスとして、送り迎えを全面的にタダにしても、良いのかなと思います。

しかし地域公共交通として、総合的に中学生も高齢者も両方やっていこうという意見が出てきて当然かなっていう風に思いますので、今後両方にやれるような施策として、考えていただけたらと、要望しておきたいと思います。

(猪井会長)

ちょっとそちらに議論は行き過ぎたというところと、スクールバスにしてそちらに住民を乗降していただくという形もありますが、そうすると実は、スクールバスの利用が中心になってしまいますので、他の兵庫県内の市町村でもそういう運行されているところがあるのですが、登録はされるのですが、実態はほとんど使われない。ですので、今の形で、地域バスに乗っていただく方がよいかと。スクールバスになるとほぼ中学生とかだけになってしまいます。

地域のご高齢の方を高校生や中学生が見ているということが、実は私は意味があると思っています。スクールバスとしてしまうと世代間交流が失われてしまう。

ですが、もともとの目的のだからといって、中学生乗りすぎて、車両があふれて高齢者が乗れず病院に行けないとなっても本末転倒ですので、バランスを取っていかないと。大変適切なお指摘ありがとうございます。総合的に皆さんでもう一度考えていきましょうということです。

冒頭で町長がご説明されたように運行開始から6年経ち、定着はしてきているが、当初の目的と違った利用も定着してきており、もう一度目的を考え直すべきではないかというご指摘を全体でいただいて、それに対して、目的に合わせて運行も変えていくべきではあるけれども、だからといって当初の目的を忘れるべきではない、総合的に考えていきたいと思いますというご指摘を賜ったところでございます。

町としては、どう取りまとめていくのかそのような議論をしていくのかということも含めて少しまた検討いただいて、こちらの会議にかけていただくか、町の施策として、

進めていただくことをお願いしたいと思います。

では、次、資料3の方、公共交通の評価につきまして、案をご説明いただいて、引き続きご議論させていただこうと思っております。

(事務局) 資料—3説明

(猪井会長)

続きまして、資料4もよろしいですか。

(事務局) 資料—4説明

(猪井会長)

資料3・4についてご説明いただきましたが、この点につきましてご質問ありましたら。

(中川委員)

我々、議会といたしましては、当初から三重県の玉城町のオンデマンド方式ですね、この辺を推奨していたのですが、もうこのように定着しつつある状況になってはなかなか進まないと思いますので、改善点とかですねそこをちょっとお聞きしたいと思います。

まず、この4ページの評価の方なのですが、この収益率や1日当たりの利用者数とか、色々評価指標あるのですが、この1日当たりの利用者数、1日40人というのは、この評価はかなり低くて、この評価基準でしたら、改善点がもう見当たらなくなってしまっているのではないかなと。

例えば、資料の5ページですが、例えば実証運行3年目から本格運行2年目までで、1日当たり126.8人、136.3人、115.3人。これは町の人口の1%未満ですね。

我々議会といたしましては、この費用対効果ということで、2,700万円かかっているというところですが、住民サービスから考えたら、これがなくなってしまったら、住民サービスの低下となりますし、金額が費用対効果で合わなかったとしたら、やっぱりこの過剰サービスが税金の無駄遣いということで我々評価されてしまうわけですね。

そういう中で、この評価基準が少し甘過ぎるのではないかなと。

もう少し我々自身が、この公共交通を本当に実のあるものにして、実際やっぱり喜んでいただけるような、システム体系からしなければいけないということを考えたときに、やはり、基準値を上げるということは大変ですけれども、ある一定の基準を満たしてこそ初めて住民サービスの適正化に繋がるのではないかなと。

その辺でちょっと今日来ていただいている国土交通省関係の方にちょっとお聞きし

たいのですが、国土交通省では、公共交通のアクセシビリティ指標ということを出されて、全国的に地域公共交通のある一定の指標に従って、評価する体制を作っておられると思うのですが、その辺の兼ね合いですね、この辺はどう考えていいのか、河南町としての指標を、今日参加していただいていますので、大体この資料が揃っておりますので、この地域公共交通として評価できるものかどうかというのを客観的に伺うことができたらお願いしたいと思うのです。

例えば、隣の太子町の方もかなり積極的にいろんなことをやっていると思うのですが、近隣の市町村とか、また河内長野においては自動運転化ですね、そのようなものを始められていろんな実証を近隣でもされています。

河南町のこの定時定路線の循環型バス、また、やまなみタクシーの運行方法というのが、適正な地域公共交通に、運行の面から評価されるべきかどうかというのをちょっと客観的に伺いたいと思うので、よろしくお願ひしたいなど。

(中西委員)

大阪支局の中西と申します。

前半部分の主要な話ですけども、すいません、ちょっと今資料を持ち合わせておりませんので、この場でお答えは難しいところでございます。

後半部分の太子町や河内長野であったり、河南町とどちらが適正かということなのですが、やはりその地域によって人口規模、年齢構成、人が動かれる量であったり、長さだったりということが違います。これが正解、不正解というのはありません。

今、脚光を浴びているシステムを導入すればいいのかということも、過去の例を見ますと、失敗例も多々あります。

ですので、今流行りのシステム飛びつくというのも、河南町に合うのであればいいと思うのですが、流行りであったりとか、新しいものであったり飛びつくというのは、あまりいい選択じゃないのかなと私は思います。

(猪井会長)

私の方からも一言。基本的には、今、中西委員がお話しされたように、地域の特性に合った、人口の特性であったり、また谷・山の入り方であったり、あと場合によってはもう財政であったり、その地域にどのような事業者さんが居るかということに大きく影響します。

あと、地域全体で見て、こういう指標というのは出たとしても、それで、断じてしまうと、必ずしも地域事情に合わないということありますので、やはりちょっとこの場で皆さんにお集まりいただいて、こういうふうを考えさせていただくということにならざるをえないかと思ひます。

私、個人的にこの状況をどう見ているかって言われた場合は、デマンドは悪くはない

と思っています。ただ、デマンドは予約が必要となります。これがやはりかなり負担になれるケースがありまして、恒常的に利用される方が、見えているのであれば、定時定路線の方が、いちいち予約をせずに行けるという意味では、有利でございますし、あとそういう意味では、地域の皆さんで、先ほどのドットと中学生が乗ってくるとかいうことを受入れるって意味では私は定時定路線で行けるところは定時定路線で行くべきだと思います。

今回、河南町がやっておられるように、一つのものではなくて、例えばバスですべてを解決しようと思うとそれすごく難しいと思われまますので、例えば今はバスとタクシーをやっているケースですので、そこをもう少し、使い方もお電話予約に変えとか、組み合わせて、解いていくしかないと思っております。

今、自動運転ってお話出ましたので自動運転の実態について、少し、私の存念をお話させていただくと、実は今自動運転っていうのは皆様が思われているような、すべて自動で来るものではなくて、これは条約の問題で、運転手が車内に乗っていることが必要になります。

車内でずっと監視している人は必ずいるということで、やはり自動運転といっても制限がかなりかかるような状況です。これが、もちろん、国際条約が変わっていった変わるかもしれませんが。

あと、もう1点ですね、自動運転の話をしていると、自動運転を入れると、カーボンニュートラル繋がるっていう話をされたりしますが、この人は何の話をしているのかなど。

自動運転車はガソリン車ではなく、ほぼEV車になる。EV車を入れるということは急速充電器が必要になります。その話になると、急速充電器の整備はなかなか難しいと。

さらにそこから、3次元の地図とか、そういうのも必要になります。自動運転でもっとお金がかかるものですので、実は私最初の踏み絵というかですね、自動運転に踏み込めるかっていうところは、充電器をステーション整備していけるかというところで、決まると思います。カーボンニュートラルと齟齬しないところの世界でいうと、まずは急速充電器の整備をして、EV車を使える環境づくりをすることが、将来的に自動運転に繋がることになりまして、そこで躊躇するようですと、今は待った方が良くと思います。

(中川委員)

自動運転は言葉の綾で言ってしまっただけで、申し訳なかったのですけれども、最終的に言いたかったのは先ほど猪井会長の方も言われたのですけれども、今の循環バス方式も、我々にとっては、少し不満はあるのですが、例えばバス停ごとにね、乗降客が常にありながら、やっているのでしたら循環バスでいいとは思いますが。ただ、ある程度これだけ浸透しておりますので、これをやめるということは我々も望んでおりません。ただ、先ほど会長の方も言われていたのですけれども、もう1件は、利用者はいらっし

やいますが、あまり機能していないやまなみタクシーの方をできたら、デマンド的な予約型のシステムに実験ですけれども、期間を1年とかに決めて、実験方式だけでもやっていただきたいというのが、希望になります。例えば今、ガソリン代も上がっていますし、カーボンニュートラルということで、環境の問題もある中で、例えば乗客がいなくても、定時定路線で動くわけです。ガソリンも使いますし、CO₂を排出するわけです。

その中で、例えばタクシーが今1台何とか確保できておりますので、そのタクシーを利用して、予約型のドアツードアに近い形ですね、デマンド交通を取り入れて、実験を行って、カナちゃんバスとの組み合わせというのも一つの選択肢じゃないかなと私たちは思うのですけれども、ご見解よろしくお願ひします

それと、その町々の特徴があつていろんな評価はできませんと。

例えば私、以前、岬町の件を言ったと思うのですが10万人以上延べで20万近くの方が、年間乗っておられるような、公共交通ということで河南町と同じような時にスタートしたのですが、河南町と差があるというようなことはですね、やはり今言いましたように環境の違いもありますし、駅の問題もありますので、そこはもうあまりね、岬町がすごく河南町が悪いというような言い方はしませんが、河南町の中でのそういう公共交通でより良いものにしていくことが5年10年先の住民の足を確保するという意味では大切なことじゃないかなと思いますので、ぜひ、やまなみタクシーを定時定路線から、予約型、またそのニーズに思った形に変更ということは、できたらお願ひしたいなというふうに思うのですが、よろしくお願ひしたいと。

(猪井会長)

委員がおっしゃられたように、そのように空いてきたのであれば、デマンド等の検討をすべきかと私は思いますが、現状の利用と当たらないかの検証がございますので、今この場でやる、やらないという議論は出ないと思います。そのあたり、企画課の方で少しご検討いただいて、理事者の方とそのような実験をして、最終的にやまなみタクシーをどうするのかという話になりますので、この場では答えられないとは思いますが、令和4年度中に検討いただいて、予算等々必要になりますので、実体化するにしても、令和5年度予算の要求が通るか通らないかという話になるかと思ひますので、4年度内にご検討ください。

(関委員)

地域の人からですが、カナちゃんバスはやっぱり買い物に利用するので非常にありがたいです。健康に役立つように、坂道は歩いて、上り道は荷物も多いので、乗せていただいたら、片道だけで済むので、健康にも役立っていますというご意見もいただいて、継続して欲しいという要望があります。

それで、一つは車椅子の関係なのですが、やっぱり高齢化がもっともっと進んでいく状況ですので、来年度つていうふうに申しませんが、長期的な視野で、やはり車両の改

善もだんだん必要になってくるのではないかなと。

それはやっぱり総合政策の中で、位置付けていただけたらなと思います。

それともう一つ、やっぱり要望というのが、乗車券を11枚綴りにしてくれたら、目に見えるメリットがありますし、100円払わなくていいので便利なので有難いという要望がありました。

それから、やまなみタクシーの空き車率が80%という実態がありますので、曜日も限られていますし、やはりそこは、中川委員おっしゃったように、タクシーの呼び出し制というか、堺の美原区でやっているような予約制のタクシー予約があった場合は出ますよ、そのバス停まで行きますよという風な形も、また検討していただけたらなと。空き車率をちょっと考えないといけないなと思いましたのでよろしくお願いします。

(事務局)

車両の件なのですが、障がい者の方が乗りづらいバスになっておりますし、高齢者の方もちょっとステップが高いのではないかというお声もいただいております。そういうところも含めて、予算の関係もございまして、検討していきたいと思っております。

回数券につきましては、11枚つづりというところもございまして、当初は収支をこれ以上悪くする必要はないのではというご意見もいただきましたので、そこらも含めまして、もうちょっとお時間いただけたらと思います。

タクシーにつきましては堺市美原区ですね。そこは、駅がありましてタクシーがそこにいます。そこへ電話をして来てもらうと。

河南町の場合は駅がございませぬので、どちらの形にしても今の形のようにタクシーを借り上げて、役場になるか分かりませんが、タクシーをそこに、常時1台1日置いて、予約があれば走るか、今の形をこのまま継続するのか、それは先ほど会長おっしゃった通りに、予算の関係もございましてそうやっぱりそのタクシーを走っている地域の方々の納得、ご意見も聞いてからでないと、大きく変更することは難しいかと思っておりますので、ちょっとそちらの方もお時間いただけたらと思います。

(猪井会長)

先ほどもお話ししましたが、回数券。11枚にすることに含めてもこれ、予算掛かります多分、ただそれをやっていくにしても、今のままですとなかなか、増やすことは難しいという厳しい財政状況でございましてやっぱりそこを変えていこうとすると、地域の方々の意見を聞かないといけないと思いますので、先ほどお話しした地域の説明会を一度回っていくということが大事なのかなと思います。

(柴田委員)

大宝地区は高齢化の高いところで、このカナちゃんバスの必要性っていうのを一番

感じている地区なのですが、データで見れば、本当に限られた人しか乗っていないのもこれも事実なのです。だけどこれがなくなったらね、地域の方は役場にも行けない、買い物にも行けない、病院にも行けない。

そういう弱者が、どんどん増えて行っている中で、やっぱりこの公共交通バスを生活の糧としてね、やっていかなければならないというところの人がたくさん出てきているのは間違いないし、それから、乗っている人に聞けばこれ絶対必要なものだろうとなります。

ところが、一般の人は自由に車を乗ってどこでも行ける人はね、カナちゃんバス必要ないというような人もいるし、もっと良いことをやってくれたら良いという人もいます。

ですが、もっともっと生活のレベルの一番下のことを考えれば、カナちゃんバスというのが非常にもう重要な公共交通施設だというのは、分かってもらえていますし、それからアンケートを採っても、やっぱりこれはもう絶対必要なことだという認識も持たれていると思うのです。

いろんな意見が確かに出ているのですが、この評価会議っていうのは、今やっている事柄について、皆さんのご意見とか地域の意見を反映した中で、もっともっと良いもの、をやっていこうということを検討する場ということで、あんまり要望とかね、そういうことだけを全面的に出すのではなくて、もうちょっと地域の方が本当にこれを大切にしているというところを理解した会議にして欲しいなと言うのが私の意見です。

(猪井会長)

他、何かご意見ございませんでしょうか。

(北井委員)

今、柴田さんがおっしゃられたように、人間、欲というのは幾らでもあります。我々、私にしても、古川さんにしても、小学校からずっと小学校中学校と歩いて、私は持尾地区です。ずっと歩いてきたのです。だから、歩くのが当然だと思っています。

それがだんだんこういうふうに、文化が発達してきて、やれ車だなど、ぜいたくしたら、なんぼでももう、それが身についてきますわね。

だから、先ほど、中学生半額にするとか、何とかおっしゃるけども、じゃあ、中学生がカナちゃんバスに乗れなかったらどうするのですか。

各家々から送っていかないといけなくなってしまいます。時間を割いて自分の車を出して、それで、それがなくなるだけでもありがたいなと思ってくれましたらいいのですが、そこまでできたら、もうちょっと安くできないかと。

もっと時間をこうできないかと、欲というものは幾らでもあるのです。

今、持尾地区も、やまなみタクシーが乗車率悪くて、私は心苦しく思っていますけども、今まで乗られていた人は年齢的にも高くて、その方々が亡くなられていきます。これからは最低限、携帯の使える年代になってきたので、オンデマンドというか、予約で予約して、5分後10分後に行けますよというような形で取っていただけるのなら、それも可能かなと。

確かに空で走っていただくのは気の毒だし、確実に出たいという意思があって電話したら来てくれるということが分かったら、今おられる高齢者は、ほとんどが自分でスマホを持っておられる人ですから、そういう時代になってきているからいけるのではないかなと思います。時代も変わっていきますから、時代に応じた対応ができるのではないかなと思います。

(猪井会長)

これ、高齢者側も変わってきたというところご指摘のとおりだと思いますので、その辺りも含めまして、今までもご指摘が出ていましたように、カナちゃんバスの方は良いのですが、やまなみタクシーのほうは少し考えたほうがいいねということは、来年度に向けて、少し検討いただけたらという風に考えております。

他に何かないでしょうか。

大変、多方面からのご意見を賜りましてありがとうございます。大変正しいご議論賜りましてありがとうございます。

このような議論いただくことが、本当に地域のためになると思いますし、それが改善に繋がると思います。

で、どうしても、まさに先ほどもおっしゃられました、人というものは、欲というのがあると、欲というのは生きていくために大事なものでございます。欲があるからこそ人間努力する。皆さんで出し合っている税とかですね、その大事なものを使って、全ての欲は叶えられないのですが、その中で叶えるべきものを考えていくことが計画というのですが、現実的に数式で解ける答えはなくて、地域の皆さんでお話しをしながら、一度決まったもので確定とせず、このように見直して改善、改善ということしていくしかないと思っておりますので、今後ともご協力いただいて、議論をしていくということが大事だと思いますので、この評価会議等々、ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

大変、参考になるご意見、こういうことをやったらどうですかというご意見を出せたというのは私、今回非常に良かったと思います。

議題の方で、その他何かございませんか。

あと、何かご参加の皆様から、言い忘れとかあればお受けしようと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

以上で、用意しておりました議事、すべてでございます。

今回色々賜りましたご意見を事務局において整理いただいて、次回の日程でございますが、来年の6月ごろめどに開催したいこの会議でご報告いただいておりますね、それと加えて、少しアクションというのをこういうふうに起こしますということまでお話賜れば、大変進展していいなと思っております。

最後に議決を取ろうということで、本日の公共交通評価会議で令和4年2月以降も、カナちゃんバス、やまなみタクシーの継続を運行していく方針であるということで、この点相違ないでしょうか。

(拍手)

ありがとうございます。

今後とも、地域の方の足であるということは変わりございません。それを継続的に皆さんで支えていくということは続けばという風に思っております。

大変ありがとうございます。

本日、予定しておりました案件以上でございます。

これで、令和3年度の第1回の河南町地域公共交通評価会議を終了いたします。大変ご協力いただきまして、ありがとうございました。

以上